

開催月日 : 平成28年9月28日

平成28年度第10回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護連携推進会議

時間	am (pm) 14:00 ~ am (pm) 15:00	場所	グッドライフケア港支店
司会	今口 友紀	書記	今口 友紀
出席者	麻布地区高齢者相談センター : 1名		
	高輪地区高齢者相談センター : 1名		
	民生委員 : 1名		
	ジャパソケア港 : 介護支援専門員 1名		
	ケアサークル恵愛 : 介護支援専門員 1名		
	グッドライフケア居宅介護支援センター 港 : 介護支援専門員 篠原 真貴		
	グッドライフケア居宅介護支援センター 港 : 介護支援専門員 徳田 晴彦		
	グッドライフケア居宅介護支援センター 港 : 介護支援専門員 松山 初美		
	グッドライフケア24 : 統括・アセスメントナース 濱崎 友子		
	グッドライフケア24 : 管理者・計画作成責任者 今口 友紀		
会議内容	1. 開会挨拶 グッドライフケア24 管理者 今口 友紀		
	2. 参加者紹介 自己紹介していただく		
	3. 28年6月~28年8月までのサービス提供状況報告 グッドライフケア24 管理者 今口 友紀		
	4. 意見交換		
	5. 閉会の挨拶 グッドライフケア24 管理者 今口 友紀		

詳細
2. 参加者紹介 出席者参照
3. サービス提供状況報告 サービス開始から本日までの利用者の状況の報告(別紙参照) サービスの提供状況の報告

4. 意見交換(事例に対しての意見交換)
・精神的な疾患があり60代の若い方でケアマネージャーも介入が難しかったと思った。
・退院後暫定であげて定期巡回サービスを開始することが多い。
・品川区では要支援の認定になっても夜間対応型訪問介護の随時訪問が引き続き利用可能。
・実際に要介護だと思ってサービスを組んでも要支援になることはある。
・以前同様に要支援認定が出てしまい、定期巡回が適用できず自費になってしまった方がいる。
その場合、きちんと事前に説明はしているのか？
→事前に訪問介護・定期巡回・自費の契約をし、自費になった場合の金額説明も先に行った。
・この方は治験をされていた御利用者様だった。その方の状況にはその薬が効いていた。
お店に行くのが生きがだったため、サービス量がすごく少なかった。それもあって支援が出たが、
脳腫瘍もあり悪化するのは目に見えていた。お兄様もどうしたらいいのかわからない状態で、
何が一番妹にとっていいのか悩んでいた。こちらも提案はするが、決めきれず返答も遅かった。
・役所の人に来てヒヤリングや目視だけで認定結果でる。その方の本当の状態がそれだけでわかるのか
不安になりました。それは認定調査に来た人のヒヤリングと目視だけで、本当の所をわかっていない。
本当の所がわかるのは、介護や医療で携わった人。区役所・介護・医療が連携して認定結果が出るといい。
・財政豊かな港区だからこそできることがあればいいと思った。
・高齢者のお祝いで商品券を渡しているが、一人でお亡くなりになっている方がいた。そういう方も増えてきている。
・緊急システムも色々なところが行っているが、それがまとまり連携してできるサービスがあるといい。
・地域の見守り強化が必要。熱中症や栄養が摂れていない人もいる。そういった方の見守りが必要。
・事例については、強引に進める必要はなく今回の対応がベターだったと思う。
・港区はガクンと介護度が下がる場合は連絡はないのか？世田谷区はほぼ認定係から事前に連絡がくる。
その時にきちんと現状を伝えることができていた。
・港区では認定審査会は急ぎの人を入れる余裕を持つようにして認定していたが、認定の数が多くなっている。
・認定には主治医の意見書がある。
・認定期間が長めに出ているから、来年度は余裕があるのでは？
・この方が癌の治療をしたいのか？どこまで自宅で生活したいのか？きちんと確認している必要があった。
この対応で間違いはなかったと思う。
・キーパーソンの方の意向、本人の意向をきちんと反映できていたか、精査が必要だと思う。
・認定の予測は難しいので、できるだけ立ち会いをして介護の意見を調査委員に伝えられるようにしたい。
・末期癌で支援認定が出るのがびっくりした。友人が手伝ってくださっていたが、どこまで見てくださるのか
わからない状態だった。その確認も必要だった。
・医師への働きかけも必要だった。癌末期の場合、どんな意見書を書いてもらうのかも大事。
どれだけのことを書いてくださるのかも、すごく大事だと思う。医師に誰がどんなアプローチをするのかも大事。
往診の先生は分かっているが、大病院の先生は違う。
・先生は在宅で過ごすと思っていたいなかった。ご本人も心酔していた。困ったらすぐに先生に連絡していた。
いざ、緩和に移ることになった時に、病院を移るしかなくなり本人はかなりショックだった。
「最後まで診る」と言った医者責任はすごく大きかったと感じた。転院になり緊張の糸が切れてしまった。